

【事業実績】

「平和資料館および学校との連携による平和学習モデル構築事業」において、資料館のアーカイブ資料を利用、学校の授業での活用・普及を目的として平和学習コンテンツの制作を実施した。本事業を通して、学校教育活動への支援および平和資料館の教育普及機能の強化を目指した。



1. 平和学習コンテンツの企画

① 先行事例の調査

デジタルコンテンツを駆使した展示手法、ヨーロッパにおける歴史教育に関する e-learning システム、子どもを対象とした平和学習講座、博物館と学校との連携等について、国内外の先行事例の調査を実施した。

◆国内: (7/13、14) 平和祈念展示資料館、昭和館、しょうけい館(東京都)

(11/8、10) 九州歴史資料館(福岡県)、長崎県美術館(長崎県)

◆国外: (10/3-9) ワルシャワ蜂起博物館、オスカー・シンドラーのエナメル工場、クラクフ教育大学等

European Network Remembrance and Solidarity(記憶と連帯の欧州ネットワーク/ポーランド)



←九州歴史資料館
(福岡県)



→左: ワルシャワ蜂起博物館
右: オスカー・シンドラーの
エナメル工場
(ポーランド)



② 平和学習コンテンツの構成検討(第1回検討会議開催 7/27:ピースおおさか)

国立民族学博物館の丸川准教授、システム開発業者、当館職員とで、第一段階として平和学習コンテンツの構成、システム登載機能の検討などを行った。(→会議後は本事業の連携先へ議事録を共有。)

③ 平和学習コンテンツ内登載の素材の調査

堺市立平和と人権資料館、吹田市立平和祈念資料館、豊中市人権政策課人権平和センター豊中より、戦前、戦中、戦後の写真や動画等の資料提供を依頼し、また他の博物館、資料館に対して写真等の資料の利用申請を行った。

2. 平和学習コンテンツの制作

① 平和学習コンテンツの詳細設計、システム構築(第2回検討会議開催 10/13:ピースおおさか)

コンテンツのデザイン案、登載する機能等の確認を行った。(→会議後は本事業の連携先へ議事録を共有。)

平和学習コンテンツ「戦争と人々の暮らし」試作版の完成 (11月下旬)



②平和学習コンテンツの試作会

教員の協力を得て、試作版を実際に使用、意見聴取を行い、完成版へ向けて改善点等を確認した。

◆教員への意見聴取

①12/5:大阪市立平尾小学校(6年担当教員) ②12/6:大阪市立聖和小学校(社会科担当教員)



【教員の感想】
 ・コンテンツ内に写真等の資料が豊富にある。
 ・教員用にまとめや参考質問があるのはよい。
 ・現代に沿ったデジタル教材として役に立つ。



【教員の感想】
 ・コンテンツ内の写真の検索機能があればよい。
 ・写真が拡大できればよい。
 ・戦時中の手紙を入れてほしい。
 ・6年での利用想定だが低学年も使えたらよい。

◆実際の授業での試用

①1/23:大阪市立聖和小学校(6年) ②1/29:大阪市立平尾小学校(6年)

【授業で使用した教員の感想】

- ・教科書に載っていない写真が多く、子どもたち一人一人の関心を引き出せるような調べ学習ができる。
- ・平和資料館での校外学習の際は、滞在時間の関係から調べ切ることができなかつたため、このコンテンツを使えば事後学習としてじっくりと調べることができる。
- ・マイカード作成は、自分におきかえて考えている子が多く、子どもたちの思いが出ていて大変ためになる。
- ・タブレットを使って、マイカードによる意見の共有ができるのがよかった。
- ・コンテンツの内容以上のことは自ら google などで調べていた。自分で内容を深めていくために、調べ方を自身で見つけ出す子もいた。

★平和学習コンテンツ「戦争と人々の暮らし」完成 (2月下旬) (↓画面の一例)

3. 平和学習コンテンツの活用

①平和学習コンテンツの活用(第3回検討会議開催 2/7:ピースおおさか ※中核館職員で実施)

学校を対象とした利用開始に向けて、システムの仕組みに沿った活用方法、広報などの検討を行った。

②平和学習コンテンツのガイドブック、チラシの作成、学校へ向けた広報、プロモーション映像制作

大阪府内の小中学校にガイドブック、チラシを送付(約1500校)。(2月末)

③教員対象の平和学習コンテンツ活用説明会等の開催

大阪府内の学校校長会等にて説明(1/11枚方市、1/12吹田市、1/18和泉市、1/25門真市、2/1高槻市ほか)。
 大阪市小学校教育研究会社会部、総合研究発表会にてPR(2/2)。

④平和学習コンテンツの利用開始(2月末～) 当館公式HPで専用ページを公開、利用の申込を開始。